

健康づくりは朝の一步から



あがの 阿賀野市長(新潟県) **田中清善**

阿賀野市といえば…

阿賀野市は、よく「阿賀町」や「安曇野市」と間違えられ、知名度の低さを痛感しています。知名度で言う、「ヤスタダヨーグルト」や、冬に湖面を埋め尽くすほど白鳥が飛来する「瓢湖」であれば聞いたことがある方もいらつしやるでしょうか。ヤスタダヨーグルトは、飲むヨーグルトの概念を覆すほどの濃厚さで、ふるさと納税でも人気ナンバーワンの商品となっています。

当地から輩出された偉人というと、早稲田大学の初代図書館長で図書館の発展に寄与した市島春城や、『大日本地名辞書』を編



五頭温泉郷(薬師の足湯)

さんした地理学者の吉田東伍も当地の出身ですし、「琵琶湖周航の歌」の原曲の作曲者である吉田千秋は、吉田東伍の次男です。

また、県内最古の温泉地「五頭温泉郷」も本市の自慢の一つです。出湯温泉、今板温泉、村杉温泉の三つからなり、ラジウム含有量が日本有数といわれる「体にいい温泉」なので、湯治場として連泊する人も多い温泉です。五頭山の麓、森の中のこぢんまりとした温泉地ではありますが、個性あふれる温泉宿のおもてなしの温かさが評判で、県が行う調査では、これまで何度も総合満足度第1位に輝いています。ご多分に漏れず、コロナ禍の影響で客足が減り厳しい状況ではありますが、落ち着いた際にはぜひ皆さんにお越しいただきたいです。

また、開通に向けて工事が進む阿賀野バイパス沿いには、令和4年のオープンを目指して本市初の道の駅の整備も進めています。地域一丸となつていい道の駅を育んでいきますので、こちらもぜひご注目いただきたいです。

「子育て環境日本一」のまち

平成24年4月の市長就任以降、継続して力を入れてきた政策は子育て支援の充実です。「子育て環境日本一」を目指して、各種サービスや助成を充実し、妊娠・出産・子育てと切れ目なくサポートする体制を整えてきました。分娩費用への4万円の助成



えいご塾「GolGolえいご」

や、紙おむつ購入費への年間6万円の助成、無料の英会話教室の開催など、支援を充実させています。

子どもは地域の宝。地域の未来を担う子どもたちのため、全ての人が安心して出産・子育てできるよう、これからも取り組んでいきます。

ほどほどのウォーキング

白鳥の渡来地として全国的にも有名な瓢湖は、一周約1・2km、隣の東新池をプラスすると約1・8kmあります。

周りには四季折々の花が咲き、春にはミズバショウやレンギョウ、見事な桜の花が



白鳥の渡来地として有名な瓢湖の前にて(筆者)

訪れる人の目を楽しませ、初夏にかけては、色鮮やかな紫色のアヤマや色とりどりのアジサイが咲き誇り、お盆の頃にはピンク色のハスの花が違った雰囲気を出してくれま

す。また、冬になると白鳥と瓢湖、五頭山の雪景色が相まって何とも幻想的な風景に出会えます。

本市は、いつまでも健康で生き生きと暮らしていただける、健康寿命を延ばす取り組みを進めているところであり、私も健康を維持するため、早朝や執務を終えた夕方など、せいたくな

ウオーキングをかれこれ10年以上続けております。瓢湖周辺の花々、優雅に泳ぐ水鳥、野鳥の声に耳を傾けながらのウオーキングは、ストレス発散、リフレッシュし過ぎ

なのか、歩きながら思いついたことや事業へのアイデアなど、考えていたことを忘れることもあるくらいです(笑)。

最近、市民の皆さんとのあいさつも楽しみの一つでありますので、休日になると歩く範囲を田

園地帯に拡大して10kmほど歩いたとき、股関節が痛くなりました。

これからも、体と相談しながら歩く距離をほどほどにして、本市の自然豊かな四季の移ろいに新たな発見を見いだしながら、ウオーキングを楽しみたいと思います。

高校球児と共に

私は、夏の高校野球を見るのが大好きです。大会歌「栄冠は君に輝く」がこだまする2年ぶりの夏の甲子園、くじけない心、石川代表・小松大谷の木下主将の選手宣誓には涙が出そうになりました。

過去を振り返りますと、1969年決勝、三沢高校と松山商業、延長18回を戦い抜いての再試合をはじめ、2006年決勝、早稲田実業と駒大苫小牧、延長15回引き分け再試合、最近では、金足農業と大阪桐蔭の決勝など、数多くの感動的なシーンに今でも思い出すと気持ち熱くなります。

球児たちの、決して諦めることのないひたむきな全力プレーに、私は心を動かされ、そのたびに勇気をもらっています。

また、私は市長になる前の県職員時代、六日町をはじめ、佐渡、五泉など県内各地に勤務していたことから、その土地柄や地域の特性と共に育った球児たちや本



ウオーキング途中の筆者

市出身の球児たちが気になり、夏の甲子園と同じくらいに、県大会を応援しています。その応援ぶりは、県大会参加チーム一覧を取り寄せ選手をマーキングすることからはじまり、休日になると帽子をかぶり少々変装して、双眼鏡をのぞきながら選手の応援に行き、また、その日の夕方に流れるニュースは欠かさず見て、その結果をトーナメント表に表示。その際1人でぶつぶつと解説や論評するといった、ある意味監督になったつもりで1人楽しんでいきます。